

第1号議案

第50期(令和4年度)事業報告書

概要

当期のと畜実績は、前期に対し牛 1,767 頭で 205 頭の増、豚 1,287 頭で 194 頭の減、馬 4 頭で 1 頭の減、山羊 421 頭で 86 頭の増となっております。

これまで、インバウンド需要や外食需要の落ち込みなどによる畜産物の停滞、畜産経営の逼迫による飼養抑制により、と畜頭数の伸び悩みがみられていたが、新型コロナの収束に伴い、ここ最近における、牛のと畜頭数は回復傾向にあり、特に、経産牛の販売が好調で顕著な伸びを示しているほか、JA石垣牛をはじめとする肥育牛においても、微増となっております。

しかしながら、牛の部分肉加工においては、今期実績で 829 頭に留まり、率にして 47%、未だ半分以上の枝肉が持ち出されている状況にあります。

豚においては、農家戸数は変わらないが、大規模農家の飼養頭数が減少傾向にあるため、前年に比べ 194 頭の大減となっております。施設の老朽化などにより当面の増頭計画は見込めないため、豚舎の建築支援など関係機関の取り組みに期待をしております。

山羊においては、石垣市山羊生産組合による増頭に向けた取り組みなどにより、前期の頭数より 86 頭の増となっております。

なお、今期においても新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した、と畜費支援事業が実施されたことで、農家負担の軽減が図られたため、前期以上の効果が得られたと考えられます。

弊社の経営を大きく左右すると畜解体収入は昨年の料金改定により多少の伸びがみられたが、健全な会社運営を行うため、徹底した経費の削減はもとより、経営全般にわたる業務の効率化・合理化施策に取り組んできましたが、未だ厳しい状況にあります。

製造原価については、令和 5 年 6 月より電気料金の大幅な値上げが予定されており、額にして、一月約 100 万円、年間で 1,200 万の増額が想定されます。

また、機械設備においても、経年劣化による補修頻度が増えているため、維持管理費の負担が増えることが考えられ、特にボイラー、給湯器、背割り機については、と畜停止を招く恐れもあるため、早急な改善が求められています。あわせて、と畜エリアにおけるエアコンの不具合により厳しい環境において作業を行っているため、衛生管理や職場環境の観点から改善を図る必要があります。

当期の売上高は、153,769,513 円となり、前期より 22,681,332 円の増となっております。内訳は、と畜収入が 59,993,698 円。石垣牛及びやいま牛の内臓処理収入は 26,306,801 円。カット収入については 39,285,893 円。その他の売上は 28,183,121 円で、内容としまして、牛皮及び牛脂の販売料、死亡家畜処理料、保管料及び各種証明書料などとなっております。

製造原価については、151,116,119 円であり、前期に比べ 33,886,019 円増となっております。その中でも、燃料費が 3,563,548 円の増、電気料が 1,912,714 円の増と大きく増えています。売上総利益から販売費および一般管理費を差し引いた営業に係る損失は、47,919,274 円となっており、前期に比べ 25,576,071 円増えています。また、営業外収益については、44,872,105 円であり、主な内容としまして「石垣産牛肉等の販路拡大業務」や「石垣島お肉券事業」など石垣市からの委託料となっております。

経常損失及び当期純損失は△3,243,219 円となっており、前期に比べ大幅に圧縮しましたが、今期においても赤字の計上となっております。

畜産・食肉産業を取り巻く環境は、畜産農家の減少や今年度においても、いまだ子牛セリ価格が低迷状態にあり、さらに、濃厚飼料や原油価格の高騰が続くなど、依然、厳しい状況が予想されます。弊社としまして、これまで以上の諸経費の節減に取り組むことで、食肉センターの健全な運営に努めるとともに、内部監査の実施により徹底した衛生管理基準等の遵守や HACCP体制の運用を進めてまいります。

昨年度においては、タイ国への海外輸出の初出荷がありましたが、今後はマカオ向けにも販路が開拓できるよう、関係機関との連携を綿密に図り、輸出量を増やせるよう鋭意取り組んでまいります。

第2号議案

第51期(令和5年度)事業計画(案)

弊社は、平成26年4月より新施設が稼働し今期で10年目を迎えております。

処理計画に基づいた頭数の確保は弊社の運営を左右する極めて重要な要素であります。新型コロナウイルス感染症拡大の影響による、インバウンド需要の消滅などから外食需要は大きな影響を受け、と畜頭数も減少傾向にありましたが、政府による感染法上の取り扱いが5類感染症へと移行したことに伴い、観光客の戻りがみられ、今後は、肉の需要増加が期待されるところです。

しかしながら、全国的な飼料の高値、子牛単価の低迷により、石垣牛や他のブランド牛の肥育飼養頭数は伸び悩む状況にあるため、弊社においては本年度においても、ブランド肥育牛は昨年実績頭数を確保しつつ、老廃牛、再肥育牛のと畜、販売を拡大したいと考えています。

豚においては、出荷体制の改善により、コンスタントに出荷ができるよう調整を図っているものの、全体的に飼養頭数が縮小傾向にあるため、今年度においても、増頭は見込めない状況にあります。

一方、山羊においては、山羊増殖改良推進貸付事業などの効果により、若干の増頭が見込まれるところです。

当面、各種農家を取り巻く環境は厳しい状態が続くことが予想され、今後も、と畜頭数の大幅な伸びを見込むことは難しいが、光熱費など徹底した経費削減を心掛けるとともに、これまで以上に、施設の適正稼働に努め、また、新たな収益確保策として、県外への肉の販売強化及び販路先の開拓などによる収益向上に取り組むことで、生産者と消費者を結ぶ食肉流通の拠点として、信頼を得る会社運営に努めてまいります。

又、昨年度においては、タイ国への初出荷による海外輸出が実現できたため、今後はマカオへの販路を開拓するなど、事業拡大を目指し、国、県及び市など関係機関や輸出を目指す業者とも連携し石垣牛をはじめとする石垣産の牛の輸出増量に取り込んでまいります。